

【 2025 年度 聖隷こども園・保育園 施設関係者評価 】

園名 聖隷こども園こうのとり東

目的：浜松磐田地区の聖隷福祉事業団のこども園・保育園及び関連法人のこども園が、お互いに客観的な視点で施設評価を行うことで、保育の資質向上を目指す。

評価日・評価者

評価日 2025 年 11 月 18 日

評価者 園名 聖隷こども園わかば

役職 園長 氏名 加藤 可織

評価者 園名 聖隷浜松病院ひばり保育園

役職 園長 氏名 森下 美由紀

【保育・教育理念】

聖隷の保育・教育理念が、日常の保育・教育に反映されているか。

- ・愛されて、愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る。
- ・一人ひとりの違いに気づき、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する。
- ・自己発揮できる環境の中で創造性を育てる。
- ・在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する。

保育・教育理念に基づいた「子どもの主体性を大切にするため」の保育に、園全体で継続して取り組んでいる。保育室には1人ひとりが自己発揮できるためのコーナー（環境）の設定が整い、そこでの生活・遊びを通して愛されている実感や、安心感が得られていくことが感じられた。また、これらの目標を叶えるためには職員間の連携が欠かせないが、職員同士も互いに尊重し合い、認め合うことができていることが、職員面接から分かった。

【人権尊重】

常に子どもの立場に立って、子どもの成長に最善となるような取り組み（関り・配慮）がなされているか。

0歳児クラスの保育者が、子どもの主張に対して、穏やかな雰囲気の中で丁寧に説明する様子は、人権が尊重された関り・配慮だと感じた。子どももその言葉かけによって納得でき、保育者との豊かな関係が築かれていた。

外国籍の子どもも多く在籍するが、個々の必要性に応じた援助や配慮がなされ、子ども同士が互いに認め合う雰囲気は園目標にも繋がっていると言える。

【情報保護】

個人情報保護は適切であるか。

規程に基づき、適切に行われている。

【苦情対応】

意見や苦情に対して、適切な対応ができているか。

苦情解決の体制に基づき、適切に行われている。

意見を頂いた場合には、園として解決に向かうよう努めている中で、園長・主任への報告の程度に差があることが課題として挙げられた。今後、報告すべき程度が明確化できていくと良い。

懇談会では、保護者からの質問や意見の吸い上げの場を設定している。保護者の方が気軽に園に伝えられる雰囲気が築かれていることが感じられた。

【保健・衛生】

園児の感染症等の情報提供、日常の健康観察や感染症の拡大防止等の取り組みがなされているか。

園長・主任が中心となり取り組む他、看護師も当園での経験が長く、保育士にとっても頼れる存在である。園内での共有や保護者への情報提供、行政報告等も適切に行われている。

【安全】

救急・防犯・避難訓練等を通して、職員・園児の安全対応能力の向上を図るための取り組みがなされているか。

消防計画に基づき、園長・主任・副主任が中心となって取り組まれている。事故が発生した際には、速やかに振り返り、対策がとられていた。

【運営】

施設・設備の環境や管理等、運営は適切になされているか。

設備面では、修繕の必要箇所について、必要に応じて関係他部署の応援を仰ぎつつ、迅速に対応している。

運営については、園長の思い・方針が明確に職員に伝わっていることが、職員面接からも感じられた。主任と副主任との話し合いの場も頻繁に、かつ定期的に行われており、組織としてそれぞれの力が発揮されている。

【環境美化】

園内外の清掃、物の整理整頓等、清潔で整然とした環境になっているか。また、季節感等が感じられる工夫がなされているか。

施設内の細かなところにまで、花が飾られている環境は、心惹かれ魅力的であった。生き物の飼育も至る箇所でなされ、衛生面も考慮されて、清潔感が保たれている。大人だけでなく子どもにとっても整頓しやすい環境の工夫も見られた。

【保育室】

室内の環境が子どもの発達に合わせて工夫され、玩具等適切に配置されているか。

子どもの主体的な生活や遊びを支援するための環境構成がなされていた。例えば、幼児クラスの折り紙コーナーには、子どもが自由に好きな色を取り出すことの棚が備えられ、自然と遊びへの意欲が引き出されると感じた。室内に用意されたコーナー各所で、数名ずつがそれぞれに遊びに熱中している様子を見ることが出来、在籍園児数が多い中でも、家庭的な雰囲気を作り出しているのは環境設定の工夫によるものも大きいと思われる。

【保育内容】

全体的な計画に基づき、「歳児別保育目標」を意識した保育が展開されているか。

0歳児

- ・ 神さまから預かったいのちとして大切にされる
- ・ 大人の愛情に包まれ、安心して過ごす
- ・ 意思がしっかり受け止められ、安心して自分らしさを出す

1歳児

- ・ 保育者の祈りや讃美することを通して、神さまに会う
- ・ 歩行と共に行動範囲をひろげ、興味・関心をひろげる

- ・ 神さまや周りの人たちに守られ、愛されていることを感じる
- ・ 全身を使ってあそび、言葉や身振りで自分の思いを表す

2 歳児

- ・ 神さまや周りの人たちに守られ、愛されていることを感じる
- ・ さまざまなことに興味・関心を持ち、保育者や友だちの中であそびを楽しむ。また、生活面の自立ができるようになる。

3 歳児

- ・ 保育者や友だちと一緒に讃美歌を歌うことやお祈りをすることを喜ぶ
- ・ あそびを通してイメージを広げ、社会や自然を理解し、友だちとあそぶことの楽しさやルールの大切さを味わう

4 歳児

- ・ 保育者や友だちと礼拝を守りながら日々を歩む
- ・ あそびを通して基本的な自然や物事の特徴を知り、友だちとのかかわりを通して葛藤を乗り越え、集団生活を豊かにする

5 歳児

- ・ 一人ひとりが神さまから違った良いものをいただいていることを認め合って過ごす
- ・ 共同的な活動を通して、子どもたちが自分の役割を知り、互いに認め合いながら、主体的に行事やクラスの運営を行う

0～2 歳児の乳児クラスでは、「ゆるやかな育児担当制」の保育を行い、例えば食事の時間では、保育者が子ども個々の状況や、意向を尊重しながら温かな雰囲気の中で食事が進められていることが感じられた。そのような関わりによって、子どもは安心感や愛されている実感を得られると考えられる。そのための職員の連携が各クラスで取られていることも垣間見えた。

幼児クラスでは、子どもと職員が輪になりミーティング（話し合い）を行う場面があり、友だちとのやりとりを経験しながら、子ども自身がクラス運営を行っていくための支援がなされていた。また、各コーナーは歳児別保育目標が叶えられるための環境が整っていて、子どもたちが選択し、遊びこむ様子が印象的だった。

【全体を通して】

前年度より「子どもの主体性を大切にするため」の様々な保育方法を具体的に取り入れ、リーダー層の職員が中心となって取り組んできているその積み重ねが感じられた。次年度に向けては更に、異年齢保育にも取り組みたいと現在学びを深めている。対象となる3～5歳児クラスの担任に限らず、0歳児クラスの担任までもが「異年齢保育」への理解を深め、面接をしたどの職員もこの方向性に期待を抱いていることが感じられた。組織としてチーム力が高まり、それがまた保育の質の向上にも繋がっていると考えられる。今後の取り組みが楽しみである。